



平成 13 年 10 月発行

創立時の理念思想を受け継ぎ

「正しい商人道」を身に付け、

心豊かな商人の集団を目指そう！

さる 10 月 5 日、京都大会 3 日目、午前中 (AM 10:00 ~ PM 12:30) に「新世紀に継なく友情の輪」と題して大会参加者のほとんどの方が出席される中、ワイドパネルディスカッションが行われました。

前日の総会で、役員改選も行われた経過もあり、現役員、次期役員がパネラーとして勢揃いし、あらためてペリカンクラブ 40 年の歴史を振り返りクラブの理念、思想の意思統一を図り、合わせて 21 世紀に向け今後のクラブの活動のあり方を確認しようという試みでした。当日のディスカッションの流れを再現してみたいと思います。

前半は、ペリカンクラブの来た道を振り返るということで、まず第一のコーナー「ペリカンクラブ 40 周年の総括」では、昭和 37 年 9 月賢島での設立総会での様子、その当時の出来事、理念について三日月前会長が、続いて坂井会長には、その設立の背景にあった商業界ゼミナールの思想について伺いました。続いて、金本副会長には、設立メンバーであった故中郷景樹会長のワンマンぶり、なかなか入会を許さなかったクラブの体質、その他先輩諸氏の思い出の数々をご披露して頂きました。

又、王国雄副会長は、「亡き先輩の教えに学んだ事」ということで、故新道喜久治エルダーとの思い出の秘話などを語られました。

引き続いてのコーナーは、クラブの今日までの歩みの中で 40 周年という長きに渡る会の運営の過程では、会員構成の年齢差がはっきりと生まれて来たことは、長い歴史の中では必然でした。そういう中で平成 4 年 11 月に二世後継者の方々にも商業界思想に基づく真の商人道を身に付けて欲しいとの願いから、つくし会が生まれ、平成 10 年には、熟年の会カーネル会が発足しました。

2 番目のコーナーでは、「つくし会、カーネル会、今日までの歩み」ということで、まず坂井会長が大きく貼り出された後方の図表化された 3 つの輪を示され、つくし会、カーネル会誕生の経過について、何故、必要だったのかということを中心に話され、3 つの輪の根底にある理念について熱心に解説されました。

次に、つくし会の活動 10 回の勉強会を振り返り、文字通り、そのけん引者であった、王国雄副会長、小坂三国指導委員より数々の今日までの歩み、又、設立時の苦労話を語って頂きました。

カーネル会の歩みは、名委員長であった塚崎祐三郎委員長よりカーネル 3 大会を振り返り、カーネルの「心」とはどのようなものであったか、まとめて頂きました。

コーディネーター

つくし会、カーネル会、双方とも「友情こそが全てに優る財産なのだ」と信じて歩むペリカンクラブの信条があったのだと、今さらながら気付く次第でありました。

10分間の休憩、コーヒープレイクタイムをはさんで後半はペリカンクラブの往く道と題してのディスカッションでした。

まず、次期新会長として指名された米濱会長は、8月に全会員に対して行ったアンケートの集計結果をビジュアル化した会場の大画面を使って分かりやすく説明されました。

アンケートの目的は、現在、会員の皆様がクラブに対して、どうゆう考え方を持っておられるか、又、どんなことを要望されているか知りたかったということでした。アンケートの集約結果も踏まえた上で今後の抱負、方針を示されました。

平成13年度のスローガンは以下のような内容でした。

平成13年度スローガン

個人も会社も元気になろう

そのためには

1. 会員同志がお互いをもっと知り合い
2. 協力は強力」のもと
3. 情報交換、店舗見学を相互に行い
4. みんなが元気になろう

又、小松務次期役員（実務研究会担当）及び、本年度、つくし会委員長、後藤秀夫委員長からは、実に厳しい混迷する社会情勢の中で、今こそ、ペリカンクラブは「協力は強力」のもと一致団結して、この難局を乗り切っていかなければならない。相互理解、相互信頼、相互協力のもと、お互いに知恵と力を貸し合い、元気よく21世紀のペリカンクラブを発展、継続させなければならぬと、力強い決意表明がなされました。

加藤清明 IT 推進次期担当役員からは、クラブも一年前より情報化社会に向けて IT への取り組みを開始しました。本年始めにペリカンクラブのホームページも開設できました。是非、会員の皆様もアクセスして欲しいと具体的にプロジェクターを使っての使用方の説明がなされました。

引き続き、第3のコーナーでは「商業界とペリカンクラブ」というテーマで商業界の業種別同友会であるクラブのあるべき位置を考えてみようということで、当クラブの指導員、加藤智子エルダー、全国連合同友会の会長でもある竹村猛志エルダーに商業界思想の共鳴者としてのペリカンクラブの活動はどうあるべきなのか、又、全国連合同友会の組織の中で、クラブのあるべき位置と今後のスタンスについてお尋ね致しました。

全国女性ゼミナールの会長でもある加藤智子指導委員からは、今後も商業界ゼミナールの理念を遵守し、クラブの事業を活発に行い友情の輪を育てて欲しい、大いに今後の活動を期待したいと、又、竹村猛志指導委員からは、商業界全国連合同友会の中でも最大の会員数を誇るペリカンクラブ、平成13年度も大いに自信をもって活動を押し進めて欲しいとのお言葉を頂きました。

最後のコーナー「まとめ」では新しい執行部になれば新しい手法、時代とともに時代に合った会の運営があるはず、しかし、変えては成らぬ事、変わってはいけない理念、思想、スタンスについて、三日月前会長より、引き続き坂井会長からは1つは「ペリカンクラブは永遠に継続して行って欲しい」2つ目は、「あとに続く君達は正しい商人道を求める心豊かな商人の集団であって欲しい」と涙ながらに呼びかけられました。

最後には、梶谷忠司エルダーから「がんばれ」と激励の一言を頂き、予定を10分程オーバーし、やや時間不足でしたが、盛大な拍手のもとに終了致しました。

コーディネーター 広瀬、宿澤 記